

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

②一問一答方式

質問件名 多文化共生のまちづくりの実現に向けて

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

全国的にも外国人は増加しており、出入国在留管理庁の示す 2025 年 6 月末の在留外国人数は前年末比5%の増で過去最多を更新しています。小平市の 2025 年 1 月の外国人の人口は 6,325 人でしたが 10 月には 6,661 人になり 336 人増加しています。家族の帯同もできるようになったことから、小・中学校で学ぶ外国がルーツのこどもたちも増えています。家族全体に向けた言語の支援や日本の習慣やルール の周知のほかに、文化的な違いを認め合ったうえで対等な関係性の構築を図りながら互いに理解し、尊重しながら支え合える意識の醸成を図っていくことが必須と考えます。 また、自国での戦争や紛争で命の危険に迫られ日本に来る外国人もあり、自治体での生活支援体制の整備も必要と考えます。様々な背景を持つ小平で生活する外国にルーツを持つ市民とともに、安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりの実現に向け、以下質問します。

1. 2023 年以降、小平市に転入してくる外国人やその家庭について、転入の理由、目的を把握していればお示しください。
2. 言語や文化の違いの中で生活していくには、情報の入手が大変重要です。市ホームページの多言語翻訳のほかに情報の入手のために工夫していることがあればお示しください。
3. 今年度、小平市国際交流協会に地域日本語教育コーディネーターが配置されました。活動状況と効果についてお示し下さい。
4. 外国人の転入の増加とともに、小・中学校に在籍する外国がルーツのこどもも増えています。日本語指導はもちろん様々な支援が必要なこどもがいると思いますが、サポート体制と現状の課題について伺います。
5. 多文化共生への理解啓発や防災の視点からも、外国人市民と地域住民との交流を促進することが必要ですが、見解を伺います。
6. 就職が困難だったり生活困窮など、困りごとのある外国人市民への対応の現状をお示しください。
7. 多文化共生プラン策定に向けて検討していることがあればお示しください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2025 年 11 月 13 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 柴尾ひろみ

受付番号【 】

26	25	24	23